

第8回  
新型コロナウイルス感染症の  
感染動向の推移を評価する打合せ会  
専門家の意見

# 新型コロナウイルス感染症の感染動向の推移を 評価する打合せ会における専門家の意見①

新型コロナウイルス感染症患者数は、8月下旬以降減少傾向にあることが明らかになってきました。しかし、減少速度は緩やかです。

PCR検査の陽性率は28.87%と高い状態です。患者数が拡大する一方で、検査数が追いついていない可能性が懸念されます。

年代別では、10歳未満で増加傾向が続いています。9月に入り学校が再開されます。どのような影響がでてくるか心配です。

重症化は、40歳から60歳代で患者数が多く、ワクチン接種歴のない方が多くを占めています。65歳未満のワクチン接種が進むことを期待します。

千葉県内の繁華街での人流が拡大しています。お盆の休みで、一度は減少しましたが、再び増加しています。

以上を総括すると、新型コロナウイルス感染症患者は減少傾向に転じました。しかし、人流の再拡大、PCR検査の高い陽性率、学校再開と10歳未満で感染者数増加など、楽観するには早計と考えます。

今後の対応として、65歳未満のワクチン接種が進むことを期待します。特に、小児の親の世代の接種動向に注目しています。

人流の抑制は引き続き必要です。不要不急の外出を制限すること、テレワークを推進することなど、各自ができることを実施していただくことを希望します。

# 新型コロナウイルス感染症の感染動向の推移を 評価する打合せ会における専門家の意見②－1

## 現状の評価と今後の見通し

- ・千葉県内の新規感染者数はピークを超え減少し始めている。
- ・PCR陽性率は依然30%近くの高い値で推移しており、陽性者における無症状者の割合が小さいままであることから、実際の感染者数は把握できている数よりも大幅に多いことを示唆している。
- ・新規感染者が減少しても、重症者の数はすぐには減らないため、現在の限界に近い医療機関の負担はしばらくの間、続くことが予想される。
- ・小児の感染者数が増加してきており、二学期の開始に伴い、更に増えることが予想される。
- ・人流はむしろ増えてきており、今後人流が抑制されないと、一旦減少に転じた、新規感染者数が再び増える恐れがある。
- ・過去の波では新規感染者数が十分に減らないタイミングで、緊急事態宣言や各種の制限が解除された結果、短期間で感染者数が増加に転じていることから、同じ過ちを繰り返さないことが大切と考えられる。

# 新型コロナウイルス感染症の感染動向の推移を 評価する打合せ会における専門家の意見②－2

## 必要な対策

- ・二学期の開始に伴う、小児の感染者増加を避けるために、学校内での感染対策や学校活動自体の制限を検討する。
- ・新規感染者数が減少しても、しばらくの期間、現在の災害状況に相当する医療逼迫が続くことを十分に理解してもらい、感染者を減らし続けるための、更なる協力を依頼する。
- ・若い世代のワクチン接種をできる限り推進し、流行拡大を抑制する。
- ・妊娠中の方、およびその同居家族に、できるだけ早くワクチン接種を提供し、妊婦と胎児を守り、周産期医療の負担を少しでも軽減させる。
- ・緊急事態宣言や各種の制限は、できる限り、感染者数が十分に下がり、ワクチン接種率が上昇するタイミングまで継続して、解除を慎重に判断する。
- ・重症化リスクの高いホテル療養者や自宅療養者に、抗体カクテル療法を実施する体制を早急に整備し、重症化を防ぐための早期治療を提供する。